

組版機能の機械化(2)

4X-4

*鈴木 孝弘 **大久保 俊夫 **沢田 一夫 **堤 義直

*東芝ソフトウェアエンジニアリング㈱

**㈱東芝 情報通信システム技術研究所

1.はじめに

近年,DTP(Desk Top Publishing:卓上電子出版)の
 気運が高まり,日本語ワードプロセッサにおいても
 DTPシステムを意識したシステムや日本語DTPシス
 テム等が出現してきている。

しかしながら,現状の日本語ワードプロセッサは元
 より,DTPシステムにおいても和文と欧文の混植をサ
 ポートしているものは少ない。

そこで,本格的な和欧文の組版(禁則処理)機能をサ
 ポートするため,ワークステーション上で,いくつかの
 組版機能のプロトタイピングを行なったので,そのマ
 ンマシンインターフェイスと方式について述べる。

2.禁則処理について

一般的に禁則処理といわれるものは,行頭,行末に
 あってはならない文字や行と行の間(行末から行頭)
 に跨がってはいけない文字がある場合,その状態を回
 避するために行なり処理をいう。

この行と行の間に跨がってはいけない禁則文字を
 下記に示す。

行頭禁則文字

行と行の間に跨がってはいけない文字

句読点	。、…
閉括弧	」]])
反復記号	々、ゞゞ
拗音	ゃゆよわ
促音	っ
半音	ぁいぅえぉ

行末禁則文字

行末にきてはいけない文字

短ダッシュ	～
-------	---

開括弧 「[[(
 開コーテーション ”

分離禁止

行と行の間に跨がってはならない文字

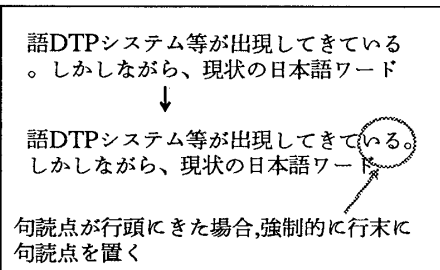
反復記号 々、ゞゞ
 長ダッシュ —

禁則の処理方法には,下記のような処理方法がある。

ぶら下げ

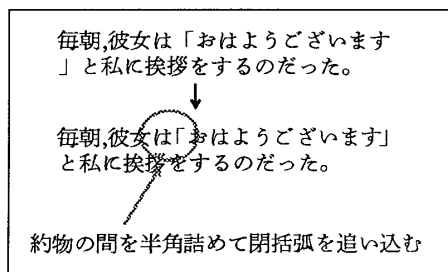
現状の日本語ワードプロセッサ等で用いられて
 いる禁則処理方法である。

句読点が行頭にきた場合,強制的に行末に句読
 点を置く(この方法は句読点が行の最終カラムよ
 りはみだす)。



追い込み

約物,または字間をつめて,禁則文字を前行に追
 い込む。



Mechanize Composite Function

*Takahiro SUZUKI **Toshio OHKUBO **Kazuo SAWADA **Yoshinao TSUTSUMI

*TOSHIBA SOFTWARE ENGINEERING Corp.

**TOSHIBA Information and Communication Systems Laboratory

「静かなり」などは、「形容動詞」といわれている。

「静かだ」などは、「静か+助詞」、
即ち形容動詞の存在を全く認めな

約物の間を半角詰めて閉括弧を追い込む

ずにこの手紙を出してください
」は「忘れずにする」とい

ずにこの手紙を出してください
」は「忘れずにする」という

前行の字間をつめて行頭の
1字を前の行に追い込む

追い出し

字間をあけて、禁則文字を次行に追い出す。

を回避するために行なう処理である
」と彼は言ったのだが、誰もその

を回避するために行なう処理である
」と彼は言ったのだが、誰もその

前行の字間をあけて末尾の
1字を次の行に追い出す

が第一線的话题を一通り説明した。
このような解説書は、いままで

が第二線的话题を一通り説明し
た。
このような解説書は、いままで

前行の字間をあけて末尾の
1字を次の行に追い出す

これらの禁則処理方法の採用順序は、編集者によってことなるので、この部分はユーザが自由に選択できるようにする必要がある。

また、禁則文字の種類についてもユーザが自由に定義できることが望ましい。

3.禁則処理のMMI

文書を作成する前にプルダウンメニューの「禁則処理」を選択すると、以下のようなウィンドウが表示される。オペレータは、このウィンドウの項目を選択表示することにより、禁則処理方法を選択することができる。

禁則処理をする

分離禁止処理

行頭行末禁則処理

ぶら下げ処理

追い込み処理 / 追い出し処理

1. 約物の間をつめて追込む
2. 字間をあけて追い出す
3. 字間をつめて追込む

優先順位: > >

禁則処理はしない

禁則処理指定ウィンドウ

この禁則処理指定ウィンドウは、次の条件をすることができる。

- a. 編集する文書に対して、禁則処理を行うか否かが指定できる。
- b. 行頭行末禁則処理方法が指定できる。「ぶら下げ」、「追い込み / 追い出し」のどちらかの方法を選択できる。
- c. 「追い込み / 追い出し」処理時の優先順位が設定できる。

4.おわりに

今回のプロトタイプングにより行った禁則処理は、まだ現状の日本語ワードプロセッサの領域を出ていない。

今後、禁則処理をより一層向上させ、DTPシステムとしての完成度を高めていきたい。